



祝 沖縄ろう学校 高等部 卒業式

色鮮やかな季節の訪れを感じる3月1日に、沖縄県立沖縄ろう学校の第61回高等部卒業式が行われ、二人の卒業生に卒業証書が手渡されました。本年度は、沖縄ろう学校が、創立百周年を迎えた年でもあります。この大きな節目にあたる年に最高学年として授業、行事、生徒会活動などに一生懸命、励む二人の姿は、本校の歴史に新たな1ページを残しました。

当日の「答辞」が素晴らしかったため、卒業生の許可を得て、ここに全文、掲載します。ぜひ、読んでみてください。二人の希望に満ちた未来を心より祝福します。卒業おめでとう。

答 辞



日差しが日増しにやわらぎ、春の訪れを感じる季節となりました。今日この日、私たち卒業生のために晴れやかな卒業式を挙げていただき、心より感謝いたします。

今、私は15年間いた本校を本日卒業する寂しさと、皆様への感謝の気持ちでいっぱいです。

幼稚部から中学部までは、何も考えないでずっと遊んでばかりの生活でした。言葉を覚えたり、本を読んだりするのが嫌いで、本を投げたりゲームをやったりしていました。先生や就業体験での聴者とのコミュニケーションがうまくいかず、自分が言いたいことをなかなか伝えられないというもどかしさばかりでした。コミュニケーションもできないし、人の心情も読み取ることができないし、だったら本を読むのも面倒くさい、読んでも意味がないと思っていた時期でした。そして友人や先生とトラブルになると、すぐに感情的になったりしていました。

ですが、高等部に入り、特に3年生になると、社会に出るということを目の当たりにするようになりました。今までは、まだまだ先のことに思っていたのですが、就業体験をやったり、就職した先輩からいろいろ大変なことを聞いたりして、このままではだめだと思い、社会人になるということについて考えるようになりました。そこで、自分を磨き成長していくために、親や先生から本を紹介してもらい、読むようになっていきました。また、本校は生徒が少ない分、先生が自分と向き合って、自分がわかるまで説明してくださるし、わからない時にすぐ質問することができる環境でした。その中で、自分はわかる楽しさを知るようになり、もっと知識を増やしたいという気持ちが湧いてきました。だから今は、いろいろな本をアマゾンで買い求めたり、わからない言葉や事柄をすぐに先生に質問したり、インターネットで調べてメモに残したりするようになりました。そうしたら、いろいろな情報を収集する力を身に付けることが、人間関係を理解し、自分の考えをうまく説明して、職場で人間関係をうまく保ちながら仕事を続けていくことにつながっていくのだということを実感するようになってきました。すると、今では他人の意見を聞いてお互いに尊重することの大切さも少しずつ分かってくるようになりました。そして、自分の障害についても、きちんと説明する力を身に付けて発信していこうと考えることができるようになってきました。このように、いろいろな経験を積み、自分の世界を広げてくれた沖縄ろう学校の先生方に感謝しています。誠にありがとうございます。

お父さん、お母さん、自分が生まれてすぐに入院生活が続き、いろいろ大変で心配をかけたと思います。でも、今日という日を迎えることができて、本当に感謝しています。反抗的な態度ばかりとっていたけど、両親は諦めず、人の悪口を言わないように諭し続けてくれました。両親のおかげで、自分も社会人として、他人の意見をよく聞くことを大切に、意見が違ってても解決のためにいろいろ考えていかなければいけないということに気づきました。

正直、まだ生徒のままでいたいなという気持ちもあります。県外のトヨタ工場で働くことになり、いろいろ大変なことも多いと思いますが、今までこの学校で自分が経験したことを活かして、自分のことを相手にしっかりと伝えながら、一つ一つ乗り越えていけるように頑張りたいです。後輩の皆さんも自分のやりたいことを見つけられるように頑張ってください。



私も幼稚部から15年間ほど通った沖縄ろう学校をもう卒業することになるとは、まさに「光陰矢の如し」という言葉がぴったりで、寂しい気持ちがたくさんあります。

思い起こせば、私は小さい頃は無口な子で、人との関わりに全く興味がありませんでした。小学部の頃、ようやく先生方やクラスメイト、先輩方と話すことで、少しずつ手話を覚えるようになり、楽しくおしゃべりできるようになりました。人との関わりは楽しくなってきましたが、この頃はまだまだ勉強が好きではありませんでした。

中学生になると、ある先生から言葉をかけられました。「新しい経験をしたり、たくさん勉強したりすれば、自分の可能を広げられるんだよ」。私の心に刺さり、心機一転、勉強に励み、英検や様々な資格に挑戦してみました。すると視野が広がって喜びを感じ、勉強が好きになりました。

しかし、一番の大きな悩みは、自分の障害のことでした。年齢が上がるにつれて、居住地域交流や、就業体験や交流学习などで聴者との関わる機会が増えていきました。どうしても自信を持てなくて、とても緊張して、上手くコミュニケーションをとることができなくて、聴者に対する劣等感を覚え、悔しくて悩むようになりました。ですが、高等部で、不要になった参考書の寄贈を全校に呼びかける企画を立てて成功したり、就業体験で困ったときに店長と相談して具体的な改善策を考えてみたりした経験、「失敗してもいいから挑戦してみよう」という高等部の雰囲気が私の背中を押してくれました。そして、次の交流会の時に勇気を出して話しかけてみたり、自分の障害についてわかりやすく資料を作って説明してみたりすると、聴者のみんなが積極的に手話に興味を持ち、応援してくれました。自分自身が聴者との壁を作ってしまったことに気づかされ、これからはもう少しポジティブに捉えていこうと思うようになりました。さらに、「先輩と語る会」や「創立100周年祝賀会」などといった行事を通して、堂々と聴者と渡り合ったり、自分の道を切り開いたりしている素晴らしい先輩方と関わることができました。

卒業後、ヤクルト沖縄本社で働くことになりますが、私も「ろう者だからできない」という考え方をしないで、この学校で学んだことや素晴らしい先輩を思い出しながら、辛いことを乗り越えるように努力していきたいです。



後輩の皆さん。一緒に過ごした時間は、本当に楽しかったです。創立100周年記念祝賀会の時には、幼稚部から高等部まで学年に関係なく、みんな力を合わせてエイサーやダンスを披露して成功しましたね。これからの学校生活でも様々な経験をしたり挑戦したりして、成長してってください。応援しています。

お父さん、お母さん、お姉さん。私の耳が聞こえないと分かったら、すぐに宮古島からろう学校のある沖縄本島に引っ越してくれました。そして毎日ご飯を作ったり、送迎してくれたりなど、いつも支えてくれました。そのおかげで、小さい頃、言葉を全然知らなくて喋れない子だった私が、沖縄ろう学校で、手話を身につけたり、たくさんの言葉を覚えたりして、今では楽しく話せるようになっています。18年間、自分に最も合う環境をいつも守ってくれてありがとうございます。これからは、社会人として自立できる生活を送れるように頑張ります。

最後になりますが、これまでの学生生活を支えてくださった皆様、本当にいろいろお世話になりました。皆様の益々のご活躍と沖縄ろう学校のさらなる発展を心よりお祈りいたします。



祝 沖縄ろう学校 第47回 琉球新報 教育活動賞を受賞！



第47回(2024年度)琉球新報活動賞は1個人、4団体への贈呈が決まり、本校、沖縄ろう学校が、教育活動賞を受賞しました。同賞は「一隅を守り千里を照らす」を基本理念に、社会の一線で活躍する気鋭の人、団体を表彰する賞となります。贈呈式が、2月26日(水)に開催されました。

今回の受賞は、本校が本年度、創立100年ということも含め沖縄県の聴覚障害教育に100年という年月の中で携わっていただいたすべての関係者、教職員、卒業生、医療

福祉、保護者等の功績への受賞であり、様々な時代において、苦難を乗り越えてきたことが今に繋がっているということをあらためて実感しました。本県の聴覚障害教育にこれまで携わっていただいたすべての関係者の皆様、心よりおめでとうございます。



おめでとう